

平成21年度予算がまとまりました

納付金への 過重な負担により 3年連続の 赤字予算となる

2月23日に開催された第89回組合会において、平成21年度予算が可決・承認されましたのでお知らせいたします。

納付金、景気悪化などにより 健保組合財政はさらに厳しく

全国の健保組合は、平成20年度よりスタートした高齢者医療制度への高額な納付金により、非常に厳しい財政運営を強いられています。過重な負担によって、解散に追い込まれた健保組合も現れるなど、納付金は健保組合にとって財政上の大きな問題となっています。これに加え、20年秋におこった金融危機により国内の経済は低迷し、健保組合財政にも影響を及ぼし始めています。

このようななかで編成された当健保組合の21年度予算は、経常収入26億9782万円、経常支出29億5841万円、差し引き2億6060万円の赤字を計上する厳しい予算編成となりました。

別途積立金、繰越金で 赤字を補うことに



健保組合のおもな財源となる、みなさんからの保険料収入は25億7327万円となり、前年度比818万円の増加です。保険料率（調整保険料率含む）については前年度と同じ1000分の87（事業主1000分の48・被保険者1000分の39）に据え置きました。

支出においては、みなさんとご家族の医

療費や出産などの給付金にあてられる保険給付費を13億9623万円計上し、前年度予算に比べ3862万円増加しています。

納付金は、前期高齢者医療制度、後期高齢者医療制度等高齢者医療への財源にあてられるもので、今年度は同比4940万円減少の13億7831万円を見込んでいます。金額では前年度に比べ減少しているものの、保険料収入に占める納付金の割合をみると53・6%にもなっており、現役世代以外の医療費に非常に大きな負担を強いられていることがわかります。

このほか保健事業では、特定健診の実施費用、保養所の利用補助などに前年度なみの1億2734万円を計上し、みなさんの健康管理のお手伝いをしています。

これらの結果、実質的な収支である経常収支では2億6060万円の赤字が見込まれることから、これを補うために、別途積立金より1億5022万円を繰り入れ、また、繰越金1億2005万円をあてることで収支の均衡をはからなければなりませんでした。

みなさんにおかれましては、健保組合を取り巻く厳しい情勢を十分にご理解いただくとともに、当健保組合の健診事業等を日々の健康づくりにご活用いただき、医療費の削減にご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成21年度収支予算概要

健康保険

■収入

科 目	予算額(千円)
みなさんと事業主から納められる保険料	2,573,272
健保組合が互いに出し合って助け合うお金(調整保険料)	29,620
繰越金	120,053
繰入金	150,224
その他	165,575
合 計	3,038,744

■支出

科 目	予算額(千円)
病気やけがやお産をしたときに健保組合が負担する保険給付費	1,396,233
高齢者の医療に使われる納付金	1,378,305
健康づくりに使われるお金	127,343
健保組合が互いに助け合うための拠出金	29,620
その他	57,243
いざというときのための予備費	50,000
合 計	3,038,744



介護保険

■収入

科 目	予算額(千円)
介護保険料	186,436
繰越金等	19,160
合 計	205,596

■支出

科 目	予算額(千円)
介護納付金	202,189
積立金等	3,407
合 計	205,596

被保険者1人当たりでみた収支予算(健康保険)

